

SPE日本支部 30周年を迎えて



中尾忠雄(1965～1968)

第1回JAPAN RETEC会場国立京都国際会館にて
右から筆者、SPE本部長フォン氏、
RETEC委員長 大野氏、同プログラム委員 瀬戸氏

SPE日本支部発足の経緯については、大島敬治先生がプラスチック・エージ誌(Feb.1985,“晴れか曇りが”第12回)で既に詳細に記述されているが、当初からのメンバーの1人として今日を迎え、まことに感慨無量である。プラスチック関係の協会、諸団体が乱立している日本の特殊事情のもとにあって、当初20名足らずのメンバーが、今日150名近くまで増加したことは驚異であり、これは本会の運営に奉私的に努められた役員及びメンバー各位のお蔭である。

この機会に第5回 JAPAN RETECが開催されるとのこと、成功を祈っている。

第1回の JAPAN RETECは昭和43年10月に京都国立国際会館で催された。これに就いても大島先生が上記で述べておられるが、この会合は北米地域以外での最初のRETECであったので、SPE本部も多大の関心を示し、当時の会長 *Mr. Gim Fong* がわざわざ来日されるなど、海外から多数の参加者があり大成功であった。それは現在日本支部長の大野一郎氏を委員長とする実行委員会の2ヶ年に亘る配慮深い計画と周到な準備、完璧な実施の成果であった。更に大島先生が主導するジャパンプラスの援助の賜でもあった。当時たまたま支部長を勤めていた関係上、大会で歓迎の辞を述べる光栄を得たことを、うれしく想出している。

今後、SPE日本支部の一層の発展を祈念している。